

魅力再発見！
わが町の伝統文化

博多織

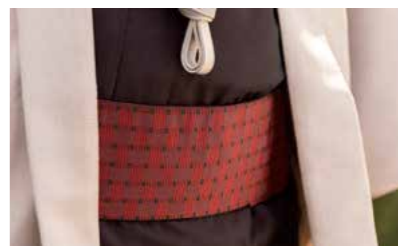
777年を超えてー

さらに変わり続ける博多織



ひとつ上の格を誇る
博多織の男帯

男帯にも定評のある博多織。落語会で真打ちに昇進した際に博多織を締めて高座にあがるそうです。また、相撲界では十両以上にあがる博多織を締めることが許される。軽く締めやすいだけでなく、その品のある風合いが人気です。



鎌倉時代、博多商人の満田彌三右衛門が大陸からその技法を伝えてから受け継がれている博多織。2018年には、博多織伝来777周年の祝の節目も迎え、町をあげてさまざまな記念行事も行われました。

博多織の特徴といえば、「絹鳴り」と呼ばれる音です。絹糸が擦れて鳴る「キュッキュ」とした独特の音は、しなやかさと丈夫さを合わせ持つ博多織ならではの音。経糸をたくさん使い、緯糸を強く打ち込んで主に経糸の柄を浮き立たせたデザインは、いずれも、粋な仕上がりが魅力です。

博多織を代表する柄が献上柄です。江戸時代に幕府へ献上されたことからその名がつけま

た。仏具である独鈷と華皿をモチーフとし古来より厄除けや、家内安全の祈りの込められた柄として知られています。

特に古代中国の陰陽思

想と結びついた献上は五色献上と呼ばれ「木・火・土・金・水」を表す5色で構成され、それぞれ青（仁）赤（礼）黄（信）紫（徳）紺（知）の意味が込められています。



五色献上柄の博多織

織物の魅力をもっと身近に
博多織を使った小物も充実



伊達がま口



鏡付き楊枝入れ

●取材協力

創始天正十五年 西村織物

博多織最古の老舗織元。本社敷地内には博多織とその歴史を伝える「博多織献上館にしむら」があり、予約制で見学が可能。

福岡県筑紫野市紫7-3-5



伝統×新
革

博多織を次代へ伝えていくために
人間国宝が技術を伝える学校を開講
博多織デベロップメントカレッジ

博多織デベロップメントカレッジは、世界に一つしかない博多織の学校です。伝統工芸の伝承を目指すために、国や福岡県、福岡市の支援を受けて始まった全国的にもユニークな取り組みです。その中心となっているのが学長であり、「献上博多織」技術保持者として人間国宝に認められる小川規三郎さんです。糸の扱いにはじまり、機の動かし方まで習得できる充実した環境のなか、人間国宝に学ぶという価値ある体験もできる場です。さらに、単に手に職をつけるだけでなく、世界に通用するクリエイターを育てるために、創造的な実践力を生み出すための「ユニットプログラム」というものを実施。各界のトップクリエイターを講師に招いて、感性や実践能力を磨く学びも実践しています。これまでに十数年に渡って数多くの若きチカラを博多織業界に輩出しています。



学長 人間国宝
小川規三郎氏

学長を務める小川規三郎氏。伝統を受け継いでいくために、自ら学生たちの技術指導にもあたっている。

活躍する卒業生

卒業生のユニットで定期的な展覧会
2020年 KIMONO プロジェクトにも参加

作り手の手から、使い手の手へ。手から手へ大切にお届けするために、定期的に3人のユニットで展示販売会を行っているのが、卒業生



の岡部由紀子さん、新開佳織さん、そして、近藤啓子さん。2019年は、2020年のスポーツの祭典を目前に、世界各国をイメージした振袖と帯を制作するプロジェクトにも参加するなど精力的な活動を行っています。



次回展示予定 2020年2/17~23 アクロス福岡匠ギャラリー

糸から織物まで、すべて手作りで
取り組むまゆ姫の夢プロジェクト

2010年卒業の大内田朋子さんと、荒木希代さんが取り組む「まゆ姫の夢」プロジェクト。「日本の帯や着物がなぜ外国産の絹でできているのか？」という思いから、福岡の地で養蚕からはじまる糸づくりに取り組み、生絹の帯や着物を制作しています。詳しい活動状況は、こちらからご覧ください。

<https://www.facebook.com/MayuHimeDream/>



養蚕製糸担当の大内田さん



その糸を使い博多織を織る
荒木さん